

久保・長江中学校区の学校再編に係る第2回久保小学校区地域説明会議事録

- 1 日 時 令和5年6月5日(月) 18:00～20:10
- 2 場 所 旧久保小学校体育館
- 3 出席者 地域住民27名
教育委員会事務局 12名
宮本教育長、川鱈教育総務部長、小柳学校教育部長、
末國庶務課長、三浦学校経営企画課長、石本教育指導課長、
石川庶務課管理係長、安保学校経営企画課学校経営支援室長、
宮崎学校経営企画課企画振興係長、玉里庶務課主任、
岡田庶務課主任、才谷教育指導課指導主事

4 進 行

担 当	内 容
<p>事務局</p> <p>宮本教育長</p> <p>教育委員会事務局</p>	<p>18:00～</p> <p>1 開会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>皆さんこんばんは。4月に教育長に就任いたしました宮本佳宏と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日はお忙しい中、地域説明会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。私の就任前のことをごさいますけれども、3月28日に第1回の地域説明会を開催いたしました。教育委員会の再編案につきましてご説明を申し上げました。皆様から多くのご意見を聞いたというふうに、ご意見をいただいたと聞いております。</p> <p>本日は改めて教育委員会の案をご説明申し上げまして、ご意見を頂戴したいと考えております。前回の説明会では、小中一貫教育校ではどんな学校を目指そうとしているのか。どんな教育を行おうとしているのか、そういったあたりが不十分であったと感じております。そこで本日は、目指す学校像や教育内容、学校の施設などについてより具体的に説明をさせていただきたいと思っております。</p> <p>また、学校再編についての教育長としての思いや考えも皆様の方に述べさせていただきたいと考えております。年度が替わりましたので、初めて本日はお越しいただいた方もいらっしゃるかもしれません。これまでの経過や、これまで行った説明内容につきましても、遠慮なくお尋ねをいただきまして、実りある会になればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>(事務局自己紹介)</p>

<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>それでははじめに資料の確認をいたします</p> <p>まず、本日のレジメが1枚目となっております。次に資料1が全面に移されましたスライドの資料になります。資料2がこれまでの経緯と今後の今後の予定になります。資料3がこれまでの説明会等の参加状況になります。資料4が3月25日から3月30日まで行った地域説明会での主な意見、質問についてとなります。本日はこの後、教育委員会事務局から説明を約40分行き、その後学校再編について教育長の思いを述べさせていただきます。その後、質疑応答を行いたいと考えております。本日の終了時刻は20時を予定しておりますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>3 説明</p> <p>これまで育友会・PTA役員と教育委員会との意見交換会や保護者・地域の説明会で説明してきましたとおり、現在提案している新しい学校は、これからの尾道の学校教育をリードする小中一貫教育校です。新しい学校では、「子供たちが切磋琢磨しながら生き生きと学ぶことができる学校」、「子供たちの夢の実現や社会的自立に向けた土台作りのできる学校」を目指し、教育環境や教育内容を整備し、尾道教育のスタンダードとして、市内小中学校の教育環境や教育内容の充実を図っていく上でのモデルにしていきたいと考えています。</p> <p>学校再編の案については、2月5日にしまなみ交流館にて保護者説明会を開催、また、3月25日から3月30日まで、小学校区ごとに地域説明会を開催し、様々なご意見をいただきました。本日は、各地域説明会の様子をお伝えするとともに、保護者説明会や全ての地域からご質問いただきました、小中一貫教育校の教育内容等について説明し、改めてみなさまにご理解をいただきたいと考え、第2回保護者説明会を開催させていただきました。よろしく願いいたします。</p> <p>本日は、最初に、改めて、学校再編案について説明いたします。次に、小中一貫教育校の教育内容について、具体的に説明いたします。また、小中一貫教育校の施設について、そして、これまでの経緯といただいたご意見について、説明いたします。</p> <p>まず、学校再編案についてですが、昨年11月22日にご覧のような再編案をお示ししました。久保小学校・長江小学校・土堂小学校は、1つの学校に統合、山波小学校は、1つの学校として存続、久保中学校と長江中学校は、1つの学校に統合し、久保小学校・長江小学校・土堂小学校の統合校と山波小学校の卒業生が進学します。これらの3つの学</p>

校は、小中一貫教育校とし、令和7年4月開校を目指します。

久保小学校、長江小学校、土堂小学校を統合した新しい小学校は、現在の長江中学校のグラウンドに、久保中学校と長江中学校を統合した新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンドに建設します。いずれも令和9年度の使用開始をめざします。山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。

これまでの取組ですが、平成21年度から平成31年度にかけて、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の耐震化の検討を行ってまいりました。進入路が狭いこと、児童が居ながらでの工事が困難であること、改築や減築が必要な工事が生じたこと、また期間中に、土砂災害防止法に基づく警戒区域等の指定があったことにより、新たな校舎が建築可能な場所が限られ、現在地での耐震化を断念し、併せて、中学校を含めた検討を開始しております。

令和3年度において、安全性の確保を目的として、仮校舎への移転を行いました。

その後、今回提案させていただいております、久保・長江中学校区学校再編の検討を行いました。

仮校舎移転前より、中学校を含めた検討を行ってまいりましたが、学区内の児童生徒の推計を考慮し、よりよい教育環境の実現を目的として検討を行っております。

検討に当たっては、次の3点を基本的な考え方として、検討を行いました。

①の安全性の確保については、学校施設を含め、公共施設は、利用者の安全を考慮し、土砂災害警戒区域、特別警戒区域内に新たな整備は行わないこと。従って、敷地内と、周囲の大半が土砂災害特別警戒区域にあたる、長江小学校と、土堂小学校の敷地には、新たな施設整備は行わないこと。

②の校舎の耐久性については、文部科学省は、大規模改修を行った上で、80年建物を使用することを示していますが、それ以上の建築年数が経過している場合、耐震化をしても、長期にわたり使用することは困難であるため、現在の校舎を、耐震補強して使用し続けることは行わないこと。久保小学校と、土堂小学校の校舎は、築80年が経過しており、校舎の継続使用は行わないこと。

そして、③の適正な学校規模の確保については、尾道市教育委員会は、新たな学校施設を整備する際は、よりよい教育環境を確保するため、1学年複数学級となる学校規模での再編を行う方針としていること。久保小学校と長江小学校は、今後も全学年1学級が継続し、土堂小

学校は、全学年が1学級となる見込みであること。また、長江中学校も、全学年が1学級となる見込みであることから再編の検討が必要と判断しました。なお、山波小学校は、今後も1学年複数学級を維持する見込みであり、令和7年度での学校再編は行いません。

また、小中一貫教育校についてですが、学校の組織としては、3つの学校は従来通りそれぞれが独立した学校です。新しい小学校、山波小学校、新しい中学校のそれぞれに、校長と教員組織があり、児童はそれぞれの小学校を卒業した後、指定学校となる新しい中学校に入学します。現在、小学校と中学校は、それぞれが目指す子供像を設定し、6年間または3年間の教育課程を編成して教育活動を行っていますが、小中一貫教育校では、小学校と中学校が、共通の学校教育目標の下、目指す子供像を共有し、義務教育9年間を通した系統的な教育課程を編成します。義務教育9年間で教育課程を考えることにより、これまで以上に魅力的で子供たちに力を付けることのできる教育が可能になると考えています。また、教育研究の研究主題や、生徒指導規程等、学校運営上必要な事項の多くが小学校と中学校で共通となるため、授業や生徒指導において、教職員が、共通の指導方法で9年間児童生徒に対応することが可能となります。

画面に出ているパンフレットは、これまでの説明会でお示ししているものです。このパンフレットで示している内容は、実現できるように検討しています。例えば、「知」確かな学力では、高学年への教科担任制の導入、「徳」豊かな心では、おのみち学、郷土愛の充実、「体」健やかな体では、健康で活力ある児童生徒の育成、「信頼」地域に開かれた学校づくりでは、新たな中学校区をコミュニティ・スクールとし、魅力ある学校にしていきたいと考えています。

石本教育指導課
長

次に、小中一貫教育校の教育内容について説明します。

初めに、小中一貫教育校で目指す児童生徒のゴールイメージです。小学校での学びの集大成として、「おのみち学」等で学んだことを発表する「伝統文化祭」のイメージです。このような場を設定し、保護者や地域の方と、子供たちの成長を喜び合いたいと考えています。

中学校では、9年間の探究的な学びの集大成として、「まちづくり政策提案発表会」のイメージです。夢の実現や社会的自立に向け、地域に貢献することのできる生徒の姿を、保護者や地域の方に見ていただきたいと考えています。

これから新しい学校の教育内容面について現在構想していることを、「目指す子ども像」「教育資源」「教育内容」の3点について、説明させていただきます。

まず、小中一貫教育校の目指す子ども像は、「郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子ども」と考えています。ここには「子供たちが尾道で育ち学んでよかったと誇りに思い、自分の可能性に挑戦し、豊かな人生を切り拓いてほしい」という願いを込めています。

9年間の学びで育てる力は、小中一貫教育校の出口を意識し、15歳の生徒に身に付けさせたい力として、広島県教育委員会が、自己実現を図っていくための基礎を義務教育段階で培っていくために設定している力と同様、「自己を認識し、人生を選択し、表現できる力」を育みたいと考えています。

また、育てたい資質・能力として、学んだことを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性」等、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」等と考えています。これは学習指導要領上示されている資質・能力であり、尾道教育総合推進計画の中でも、尾道の子どもたちに育成すべき資質・能力として掲げているものです。小中一貫教育校においても、これら3つの力をバランスよく育んでいくことが大切だと考えています。

これまで説明した資質・能力等を育成していくため、尾道らしさ、尾道ならではの視点を持って学びの在り方を考えています。そのために、尾道の教育資源である歴史、文化、産業等を確認しておきます。

「歴史から学ぶ」として、港町尾道の誕生と発展です。平安時代の第1期黄金時代では、尾道が年貢米の積出港となり、江戸時代の第2期黄金時代では、北前船の寄港地、西国街道や出雲街道による人と物流の交流点となり、明治時代の第3期黄金時代では、鉄道開通、銀行設立、市制施行等が行われ発展していきました。

「文化・産業から学ぶ」として、魅力ある歴史文化の継承です。尾道には、囲碁文化、茶文化、石工文化等が発展し、歴史的遺産としての国宝や多くの重要文化財があります。祇園祭、山波とんど行事、神明祭などの祭りも伝統文化として継承されています。また、尾道は3つの「日本遺産」、箱庭的都市尾道、村上海賊、北前船の認定を受けています。そして現在、未来へ向けて、第4期黄金時代を自分たちが作っていくんだという気概に満ちた、世界とつながるものづくりや日本に誇る農林水産業が行われています。

「先人から学ぶ」として、尾道に誇りを持ち、尾道を愛し、尾道の発展に貢献された、平山角左衛門、三木半左衛門、山口玄洞などの先人や、自分の信念を持ちやり抜き、美術界、文学界の発展に貢献された、小林和作、林芙美子などの先人が、まちづくりや芸術文化について導い

てこれら現在の尾道の発展につながっています。

このような尾道独自の視点を踏まえた学びを実現していくためには、次の3つを意識して教育内容を創っていくことが大切であると考えています。

1つ目は、「グローバルな学び」世界を意識した学びと、「ローカルな学び」尾道という地域を意識した学びを組み合わせることで教育内容を創造していくことです。

2つ目は、「個別最適な学び」児童生徒が自分の目標や進度にあったやり方で学習を進めたり、自分の興味関心のあるものを選んで学習を進めたりする学びと、「協働的な学び」学級に限らず、異なる学年の児童生徒や地域の人々などと協力しながら、主体的に問題解決していく学びを組み合わせることで、1時間の授業や単元を工夫した教育内容を創造していくことです。

3つ目は、1つ目の「グローバルな学び」「ローカルな学び」と2つ目の「個別最適な学び」「協働的な学び」を組み合わせることで9年間の学びを創造していくことです。

具体的には、「グローバル」な学びの創造として、世界につながる英語教育やキャリア教育を充実していきます。

英語教育では、小学校1年生から外国語活動を導入したいと考えています。1・2年生は年間20時間程度、学級担任とALTまたは非常勤講師により授業を展開し、3・4年生の外国語活動につなげていきたいと思っています。早期に導入することにより学ぶ意欲やコミュニケーション能力の向上に繋がることを期待しています。

近隣高等学校と連携することにより、小中学校ともに校内暗唱大会、スピーチコンテスト、ディベート等による表現力の向上が期待できます。

ALTを中学校に常駐させることに加え、市教委ALTを小中学校へ派遣することで、小学校では学期に1日程度、英語以外の教科も英語での授業を試みるイングリッシュデーを、中学校では学期に1週間程度、英語以外の教科も英語での授業を試みるイングリッシュウィークが設定できないか考えています。英語以外の教科でも英語に親しむことにより児童生徒の興味・関心が高まったり言語能力が育まれたりしていくものと考えています。

また、友好交流都市である台湾嘉義市の小中学校とオンラインによる交流を続けるとともに、英語圏の小中学校とのオンラインによる交流も検討していき、コミュニケーション能力や発信力の向上を目指していきたいと考えています。

グローバルな学びでのキャリア教育では、地元企業や事業所等との連携により職業観、勤労観を育成していきます。

小中学校では、地元企業や事業所等への訪問学習や出前授業を企画、実行し、児童生徒が企業等の技術や、職業人としてのキャリア等を直接学ぶことを繰り返し、視野を広げ夢や志につなげてほしいと考えています。また望ましい職業観、勤労観を育成していきたいと考えています。

次に、「ローカル」な学びの創造として、総合的な学習の時間を核として、ふるさと「尾道」の特色ある伝統や文化を学ぶ「おのみち学」を充実していきます。

これまで各学校で引き継がれてきた伝統である、能、神楽、茶道、太鼓等の教育活動を再構成し教育内容とすることで、郷土を愛する心を育てます。

例えば、新しい小学校では、能や太鼓、山波小学校では神楽、中学校1年生では茶道というように小学校の地域性や児童生徒の発達段階も考慮しながら、礼儀作法を身につけたり、日本の伝統文化を感じたりすることができるような教育内容を創っていきたくと考えています。

また、縦割りでの教育活動を取り入れ、児童同士、生徒同士の関わりを深めていくことや、中学生の姿から小学生が「あこがれ感」をもつような教育活動も仕組んでいけたらと考えています。

ローカルな学びのキャリア教育では、中学校では、地元企業等への職場体験活動や市内の高等学校や尾道市立大学への訪問を通じた進路学習を行い、進路指導の充実を図り社会的自立に向けた力を育てていきます。

また、現在と同様に、小学校4年生で2分の1成人式を、中学校2年生で立志式を実施し、自らの志を立て、これからの人生を逞しく生き抜こうとする自覚・意欲を高めてほしいと考えています。

小学校6年生の2学期には、小学校段階の「おのみち学」等で学んだことを保護者や地域の皆様へ発表する場として、「伝統文化祭」のような発表会の開催を目指したいと考えています。

この画面では、開校2年目の令和8年10月24日に開催となっていますが、令和7年度に実施可能ということになれば開催していくということも考えられます。

小学校では、現在土堂小学校をはじめ市内数校の小学校で実践している、学びの「基礎・基本」を大切にしたモジュール授業を展開したいと考えています。これまで積み上げてきている土堂小学校の実践を活かし、林芙美子、志賀直哉等の文学作品を取り入れた音読教材や尾道の

産業やデータを取り入れた教材の開発ができればと考えています。

次に、9年間の「グローバルな学び」「ローカルな学び」と「個別最適な学び」「協働的な学び」を組み合わせた学びの集大成として、まちづくりへ参画し、商工業、観光、農林水産業、教育、医療、福祉等の視点から生徒自ら政策を提案していくような教育内容ができないか考えています。

中学校3年生のゴールイメージを中学校1年生の早期に持たせ、学習課題を設定、まちづくりへの政策提案をする分野を決定させます。職場体験活動や進路学習も政策提案に向けた学習内容に組み込み、総合的な学習の時間を核とした「おのみち学」を充実させていきたいと考えています。また、これらの学習を通して、15歳の生徒に身に付けさせたい力を育成していきたいと考えています。

中学校3年生の2学期には、9年間の「おのみち学」等で学んだことの集大成を保護者や地域の皆様へ発表する場として、「まちづくり政策提案発表会」のような発表会の開催を目指したいと考えています。

この画面では、開校2年目の令和8年11月20日に開催となっておりますが、令和7年度に実施可能ということになれば開催していくということも考えられます。

スライドでは触れていませんが、中学校の部活動について、今後の休日の地域移行の動向にもよりますが、運動部、文化部の枠を超えて、地域活性化部というような地域に根差し地域を活性化させる目的を持って部活動を構成してみるのもいいのではと考えています。例えば、地域貢献部、ボランティア部、伝統文化部、能、神楽、太鼓、茶道等、ダンス部等が考えられると思っています。

以上のように、小中一貫教育校の柱になり得る教育内容について提示しました。これらは現段階の検討内容であるため、そのまま実現できるかは分かりませんし、新たなアイデアや考えによって再構成されることもあると思っています。教育委員会としては実現させていきたい内容となっておりますので、皆様方から意見をいただきながら精度を高めていきたいと考えています。また、今後統合に向けての機運が醸成されていけば、6校の教職員の皆さんと教育課程の編成やその教育内容について、これまでのパンフレットの内容や今日提示した内容も含め議論していきたいと考えています。

また、お示しした教育内容を実現するためには、学校だけではできません。小中一貫教育校では、説明しました通り、地域を基盤に置いた教育を行ってまいります。そのため、小学校区の枠組みや学校の場所は変わっても、また、山波小学校においても、子供たちが地域に出向いた

<p>岡田庶務課主任</p>	<p>り、地域の方をお招きしたりして、これまで以上に、地域との関係を大切にしていきたいと思います。そのため、地域のみなさまのご協力が必要となります。ご理解をお願いいたします。</p> <p>ここからは新しい学校の施設について説明いたします。学校再編については、冒頭からの説明の通りです。</p> <p>新しい統合小学校は、現在の長江中学校のグラウンド側のみを敷地とし、現在の長江中学校屋内運動場は老朽化のため建て替えとし、屋内運動場を校舎の中に配置した、5階建ての校舎を建築します。校舎の供用開始は令和9年度からとなります。その後、屋内運動場のあった位置にプールを新設します。プールは令和11年度からの供用開始となり、それまでは現在の長江小学校のプールを使用します。</p> <p>新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンドに建設します。3階建ての見込みで、令和9年度の使用開始をめざします。</p> <p>山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。</p> <p>中学校整備スケジュールです。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。令和7年4月から統合校が開校となり、そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間生徒は、現在の久保中学校校舎と久保小学校仮校舎で学びます。令和8年度末で新校舎が完成し、令和9年度から新校舎での学習が開始されます。その後、既存校舎の解体等を行い、工事は終了します。</p> <p>小学校整備スケジュールです。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。令和7年4月から統合校が開校となり、そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間、児童は、現長江中学校の校舎と長江小学校の仮校舎で学びます。令和8年度末で新校舎が完成し、令和9年4月から、児童は新しい校舎で学ぶこととなりますが、令和9年度から10年度にかけて、現在の屋内体育場を解体し、プールの新築工事を行います。プールは令和11年度からの使用をめざします。</p> <p>ここまで、施設の概略を説明しました。</p> <p>ここからは、先程ご説明しました新しい学校での教育を実現するため、施設面で新しく取り入れる機能を説明します。</p> <p>大きく3つのものを取り入れていく予定です。</p> <p>①ロッカースペース導入による専門科目教室の設置 ②ワーキングスペースの設置 ③プロジェクター方式の黒板の導入</p> <p>です。詳細については、次のとおりです。</p> <p>まずは、①のロッカースペース導入による専門科目教室の設置です</p>
----------------	---

が、これは、今まで各教室に配置しておりました個人のロッカーを、ロッカースペースとして別の場所に設置し、教室からロッカーをなくします。一日の始まりは、荷物をロッカースペースへ収納し、1時間目の授業は時間割教科の教室からスタートします。このことにより、今まで普通教室としか機能していなかった教室を、国語や英語や社会などの専門科目教室として使用することが可能です。各教室内は、その教科に特化した掲示や備品を整理でき、中学校をはじめ、小学校における教科担任制への手助けとなると考えています。

この度提案しております案の検討にあたり、教育委員会も他校の視察を行っており、先進的な取り組み例を参考にしております。例えば、こちらは叡智学園の例です。特徴的な校舎の作りで全体像は取り込めませんが、水色の教室スペースに対し、赤のロッカースペースを設置し運用しております。

例えば、新しい中学校の整備イメージですが、従来までであれば、こちらのようなレイアウトが考えられます。多くは、64㎡の普通教室を整備し、各学級のクラスルームがあり、ロッカーも教室内へ設置している形状です。

こちらが、新しい学校のレイアウトイメージです。ホームベースと呼ぶロッカースペースを各学年1スペース設けます。各教室は100㎡程度とし、各教室のしつらえを教科ごととし、専門科目教室の充実を図ります。自分のHRは設置せず、教室の多様な仕様が可能になります。1年1組等のクラス編成は行いますが、1年1組の教室を固定しない朝夕のHRは1時限、最終時限の教室にて実施するというイメージになります。

次に、②のワーキングスペースの設置です。これは、スライド17、協働的な学びの実践のため導入するものです。これからの教育は、自分でテーマを設定し課題を探究するスタイルへ、と変化しており、グループワークを行うスペースの確保を行う予定です。イメージとしては、図書室付近にスペースを創出し、グループワーク中に図書室やタブレット端末で、自分で調べ物を行うイメージです。またこれに合わせて、各教室の面積を1.5倍にして教室内にもスペース創出しております。叡智学園でのイメージです。ここでは各教室の真ん中にワーキングスペースを配置しており、図書メディアの近くでは、タブレット等を用いたグループワークが実践されてきました。

こちらが、新しい中学校のイメージです。校舎の端を利用し、ワーキングスペースが創出できると考えています。

こちらが教室内のワーキングスペースです。教室の後ろ側にスパー

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>スを確保するイメージです。</p> <p>すなわち、ワーキングスペースが複数個所設置でき、新しい教育への手助けになると考えています。</p> <p>また、画面にあるような、黒板はプロジェクター方式の導入の考えております。先生の説明用に加え、各児童生徒のタブレット端末を写すことで、グループワークの成果の共有ができることに加え、ホワイトボードとしても利用できます。特にワーキングスペースなど、壁に投影できる特徴を生かし、充実した授業ができることが期待されます。</p> <p>また、理科室等の特別教室の作りも、実験台を固定化させず、この教室を理科だけでなく、他の用途、例えば少人数教室等としても利用することを想定し、これまで以上に利便性を上げていく予定です。</p> <p>これらの施設は、中学校施設での本格的導入を考えています。</p> <p>小学校施設については、従来型の良さも活かしつつ整備を行いたいと考えています。小学校高学年でこれらの機能に触れることができ、中学校生活に移行できるよう体験的な意味合いで小学校では一部の場所で①～③の施設を整備したいと考えています。</p> <p>さて、学校再編案については、これまで、育友会・PTA役員さんとの意見交換会を中心に据え、ご意見を伺いながら、ご覧のように、保護者や地域の皆様を対象とした説明会や、議員の皆様への説明会を開催してまいりました。保護者・地域への説明会等にご出席いただいた方々の人数等については、資料3の通りです。また、資料4に、3月25日からの第1回地域説明会でいただいた主なご意見やご質問を整理しておりますので、ご覧ください。なお、資料4記載のページ数は、尾道市教育委員会のホームページに掲載しております、各地域説明会の議事録の中の、同様の意見を多数いただきましたが、その内の代表的なページを示しています。第1回地域説明会では、土堂地域では、長江通りの安全確保、地域説明会の在り方、土堂小教育の評価、土堂小学校の現地存続について等、久保地域では、小中一貫教育校について、通学方法や通学支援について等、山波地域では、小中一貫教育校について、通学方法や通学支援について、統合のメリット・デメリットについて等、長江地域では、小中一貫教育校について、長江通りの安全確保、新しい校舎の地域開放について等のご意見をいただきました。また、今後、6月3日から小学校区ごとに、第2回地域説明会、6月7日に第3回議員説明会を開催する予定としています。</p> <p>本日は、保護者説明会、地域説明会で、多くの保護者、地域の方からご質問をいただきました、通学路の安全安心の確保について、現段階における取組状況について説明します。</p>
-------------------	--

新しい小学校への主な通学路として考えられる長江通りについて、4月20日に、教育委員会、長江小学校長、道路管理者である広島県、尾道警察署、長江小学校の育友会長さんで合同点検を行い、通学路の安全安心のため、何ができるか協議を行いました。その結果、次の二つについて、実施に向けて取り組んでいくこととなりました。

一つ目は、長江三丁目の千光寺方面との交差点と、旧長江小学校の前に、注意喚起の表示や着色を行うこと、二つ目は、現在、北から途中まで引かれているグリーンラインを、長江口近くまで延長すること、です。今後も、どのような対策を行うことができるか検討し、通学上の安全安心の確保に努めてまいります。

また、新しい小学校への路線バスを活用した通学支援については、その可能性を検討しているところです。小学校3km以上としております学校統合の本市の通学支援の基準を踏まえ、通学距離や対象学年など、どのようなあり方が考えられるか検討してまいります。

尾道市では、安全な給食提供を継続するために、市内の老朽化した給食施設を計画的に整備していくこと、また令和8年度からは、市内全中学校での全員給食開始を目指し、施設整備事業に着手しています。

現在、関係する小学校では、栗北学校給食共同調理場から給食を配送しており、また、関係する中学校ではデリバリー給食を提供していますが、新たに高須地区に2,500食規模の給食センターを整備し、今の予定では、統合校、久保小学校、長江小学校、土堂小学校、久保中学校、長江中学校のほか、三成小学校、栗原北小学校、吉和中学校、日比崎中学校、美木中学校へドライシステムの調理場から給食を配送する計画として事業を進めています。

また、食育については、既に取組の一例として栗原北共同調理場では、調理作業の映像を撮影し、関係校の児童が視聴できる取組なども行っていることから、自校給食の学校のみならず、新センターからの配送となる学校においても、その取組は継続すること、また新施設の中にも調理場内での作業が見学出来るスペースを整備する予定であること等、いずれの学校においても、同様の食育の取組が出来るよう計画していきます。

また、児童生徒への配慮についてのご要望をいただきました。令和7年度の統合に際しての、児童生徒の不安や負担は大きいものと考えています。そのため、前の年の令和6年度から、児童・生徒間の交流を行うことで人間関係を構築してまいります。また、統合時に中学校3年生となる生徒が、スムーズに新しい中学校に馴染むことができるよう、各学校の授業進度や授業内容を合わせていくとともに、久保中学校と長

<p>宮本教育長</p>	<p>江中学校にある部活動の種目は、当面維持することで、所属していた部活動がなくなるのではないかという生徒の不安を払拭してまいります。そして、久保中学校と長江中学校の地の利を生かして、部活動の合同練習を行っていくなど、部員どうしの交流を深めてまいります。</p> <p>最後に、新しい学校の開校時は、各小学校、中学校から教員を配置することで、児童生徒の不安を可能な限り解消できるよう努めてまいります。</p> <p>長くなりましたが、以上で終わります。</p> <p>また、第3回の保護者説明会、地域説明会についても、日時は未定ですが、今後行うことを検討しています。</p> <p>この後、質疑応答を行います。その前に、今年度就任しました宮本佳宏教育長が、学校再編についての思いを述べさせていただきます。</p> <p>では失礼します。ここ久保小学校、長江小学校、土堂小学校、山波小学校、そして久保中学校、長江中学校、これらの4小学校2中学校というのは、長い歴史と伝統のある素晴らしい学校ばかりです。</p> <p>そうした中、そして、私は土堂小学校の校長もさせていただいておりました。大変複雑な気持ちでございますけれども、学習集団の適正な規模を図り、子供たちの教育環境を充実させる観点から、現行の計画で学校再編を進めていきたいと考えています。学校を再編し、新しい学校を創るにあたりまして、まず、大切にしたいこと、これは、それぞれの今の学校の良いところをしっかりと継承するというところでございます。</p> <p>その上で、変化の激しい、未知なる課題にこれから突き当たるだろう子どもたち。この現在の教育課題を踏まえて、私は新しい学校を、こんな学校にしたい、と考えているところです。まず子供たちにとってこの新しい学校の勉強が楽しいと思える学校、保護者の皆様が、この新しい学校は、これまでの学校の良さを生かしながら、新しい教育が行われていると思っただけの学校、そして地域の皆様にとりましては、地域を大切に、郷土愛を育てながら、新しい教育をしている、と感じていただける学校でございます。そして、県内・県外の先生方から、尾道にできた新しい学校は凄いな、尾道に行って、その学校の子供たちを見たい、そう思っただけの、そんな学校を創る決意でございます。</p> <p>先程のプレゼンの中に、私の強い思いで組み込んだ教育内容がございます。その思いをお話させていただきたいと思っております。</p> <p>まず、モジュール学習の導入です。私は、土堂小学校の校長としてモジュール学習を3年間、この目で見て、実際に取り組んでまいりましたので、その有効性は実感しております。モジュール学習というのは、1</p>
--------------	---

5分程度の短い時間で行う学習で、音読、計算、漢字などを繰り返して定着を図る学習であります。新しい小学校や、山波小学校でもこのモジュール学習を行い、集中力を養うとともに、基礎・基本の学力をしっかりと育成していきたい、そう思っています。

二つ目は、これからの新しい教育授業のイメージについてお話ししたいと思います。先日、大崎上島町にある広島叡智学園に行きまして、これからの時代に求められる新しい授業の姿を見てまいりました。すると、叡智学園に行っていない教育委員会の職員から、自分も叡智学園に行かせてほしいと次々と声があがりまして、来月10名の職員が再び叡智学園に行って、授業を見てくることになっています。広島叡智学園の教育を、尾道の公立学校に合う形に再構成し、取り入れていきたいと思えます。叡智学園で行われている授業をもとに、新しい授業イメージとして国語を例にお話をさせていただきたいと思えます。小学校で、物語文の学習をするということ为例にしてお話ししますと、これまでは、先生が「今日は登場人物が何々したときの気持ちを考えましょう。」と、先生が学習課題を提示し、教師主導で、子供は受身の姿勢になりがちでありました。これからの新しい授業のイメージは先生が学習課題を示すのではなく、子供たちが自ら読み、子供たちが学習課題を決めて主体的に学習を進めていく授業であります。例えば、4・5人のグループで、個別に文章を読みます。次に、4・5人で考えを深めてみたいということ学習課題として、それぞれの子供が発表し合い、自分たちのグループの学習課題はこれにしよう自分たちで決めてさらに読みを深めていく授業でございます。

この授業は、真の意味で子供たちの主体性から生まれる学習となります。同じ物語を読んでも、人それぞれに感じ方や考え方が異なり、唯一の正解があるのではなく、いろんな正解があることに気づくと思えます。そうして、多様な見方、考え方、感じ方を尊重できる、そうした感性を養うことにも繋がります。

ここで大切なのは、このようなグループがいくつもあるということです。他のグループの考えたこと、聞いてみたいという、そういった新しい学習意欲が生まれ、互いにグループで発表をし合い、気付き交流し合うことにより、子どもたちの学びがより広がったり、深まったりして、大きな学習効果が期待できると思えます。

次に、先程ありました、グローバルな学びの英語教育についてであります。これからの子供たちにとって英語力は必須です。よって、小学校1年生から英語教育を初め、尾道の中学校3年生は全ての生徒が、日常の会話ができる、そういうレベルの英語教育を行いたいと思っていま

す。そのためには、学校生活の中で、英語を使って聞いたり話したりする場面を、今より劇的に増やしていくということが必要だと思います。例えば、全校朝会で校長先生が、今、日本語でお話されておりますけど、その一部を英語で話していただく。子供たちに、校長先生、少し英語で話したけど、どんなことを伝えたかったと思う、というようなことを聞いてみていただく。その後、実は日本語で言うと、こういうことを言ったんだよ、というふうに話をしてもらおう。子供たちがお昼に行く給食放送を給食委員会が放送していますが、給食委員会が学校で放送をかけています、こうしたことも基本的には英語で行ってもらおう。小学校は学期に1日程度、中学校は学期に1週間程度、英語だけで生活するような、そういう時間を意図的に作る。ただし、子供たちが困らないように、小学校1年生から学校生活に必要な英語を教えて、子供たちが英語を使って生活できるように支援していく。オンラインを使って海外の学校と英語で交流したり、尾道に観光に来られた外国人の方とリアルに英語で交流をしたりする。こういうことが大事じゃないかなというふうに思います。こうした教育を実現するためには、先生方や子どもたちが困らないように、英語の教員やALTの配置、英語に堪能な地域の方々など、そうした方々を学校に来ていただいて、子どもたちを支援する、先生を支援する、そうした人材確保を考えたいというふうに思っています。

ローカルな学びということでは、先程尾道学ということがありました。この地域には、誇るべき歴史、文化、産業があります。偉大な先人の方がいらっしゃいます。こうしたことを教材として活用し、生活科や総合的な学習の時間で、尾道学として、探究的な学習を行いたいと思います。探究的な学習とは、先生が教えるのではなく、子どもたちが興味関心を持ったことを学習の出発点とし、子供たちが学びたいことを学びたい方法で、とことん調べて、それをまとめて発表する、一連の学習を指しています。この学習は、未知なる環境への適応力を身につけるため、これから新しい教育として、どんどん普及していく、そういう学習であります。

この尾道学の取り組みには、地域の皆様や保護者の皆様の協力が絶対に必要です。先生方の負担を軽減する意味でも、歴史、文化、産業などに詳しい地域や保護者の皆様の、ゲストティーチャーとして積極的に学校にお招きし、尾道学の充実に繋げていきたいというふうに思います。

尾道学のキーワードは地域貢献です。そのため学習のゴールとして小学校では伝統文化祭、中学校ではまち作り政策提案発表会を考えた

というところです。中学生の新鮮かつ独創的なアイデアで、新たな尾道名物や尾道を活性化する、新たな産業が生まれるかもしれない。そんな学習にしていきたいと思っています。

在校生や先生方への配慮ということについてお話をいたします。先生方の意識が統合ばかりに向いて。統合のための労力や時間が取られるので、統合前に卒業する在校生の教育は大丈夫なのかと、心配をされていらっしゃる方も居られると思います。絶対に在校生の教育がおろそかになってはいけません。今学校に通って頑張っている在校生の教育に支障がないように、在校生や先生がたへの配慮をしっかりと行っていきたいと思っています。また、学年の途中から新しい学校に編入することになる在校生への配慮は、当然しっかりと行っていきたいと思っています。

学校を統合するまでの期間に、合同学習や合同行事、新しい学校にスムーズに適用できるようにするための体験的な学習を実施します。新しい学校における教育内容や教育方法を事前に説明し、子どもたちがワクワクドキドキして開校日を迎えることができるようにしていきたいと、そのように思っています。また、子供たちや保護者の皆様が安心できる教職員の人事。先生方もスムーズに新しい学校で教育活動ができるようにするための研修を、できるだけ負担をかけないような方法で行っていきたいと思っています。

終わりになりますけれども、小中一貫教育校は、これからの尾道の学校教育をリードし、その成果や方法は、市内の他の学校へ普及し、尾道全体の教育を新たなステージへと引き上げていくものと考えています。それを実現するためには、教育委員会だけでは無理です。地域・保護者の皆様のご理解とご協力が必要です。どうか、私たちと一緒に、この新しい学校を創ってまいりましょう。よろしく願いいたします。

4 質疑応答

教育委員会事務局
(司会)

教育委員会の説明に対して、質疑を受けたいと思います。質疑のある方は、挙手をお願いいたします。

住民 1

先程、教育長が最後に言われた、新たなステージに引き上げていくということだったが、先程から、説明を聞いていると、どうも土堂小学校ね、特別な学校かどうかわかりませんが。土堂小学校の児童よりも、保護者の変な優越感、これをまた、小中一貫校で、植え付けるんじゃないかなと。

というのが、これ見たら確かに、いろんなことをしないといけない。実際に、子供が出来るかどうかというのは、地域なり、保護者の問題もありますけども、じゃあ、それに対応できる教職員を配置するとなると、当然こういう言い方、ぶっちゃけた話ですよ、一貫校にはエリートの先生が来ると、他の学校はどうでもいいような配置にならざるをえないのじゃないか。というのが、教育現場というのは、敬遠されてますよね、若い人に。それこそ競争率を1. 何倍とかいう。そういう1. 何倍という倍率を受かってきた先生方が、採用決まった時点でもう一国一城の主なんです。大学出て、すぐ入って一国一城の主になって、それで教育できるかといったら、昔だったら、学年主任とか、同じ学校の中で相談しながら育ててくれる環境があった。今は、現場の先生自体は、大休憩なり、昼休憩なり、放課後なりに、児童生徒と一緒にあって、遊ぶ、話し合いをする時間が、実際にはないのじゃないのですか。時間がない中で、これだけのことをやっていくというのは、正直言って、子供にとってもしんどいだろうし、保護者の方は、変な期待を持って、あそこへ行きさえすれば、なんとかなるわ、とそういうどうしても、越境入学ということではないですが、してでもとにかく行こうと、行かせたいという保護者は必ず居ると思うのですよ。そういう保護者を受け入れるわけですか。土堂小学校の二の舞いになる気がします。土堂小学校は確かに、先程言われたように、児童自体が広い視野を持って活動しているのは、よく分かっています。分かっているけどそれが、子供を通じて、保護者の方に変な優越感を植え付けたんじゃないかなと。

それと実際問題、小中一貫教育校にするということだが。例えばですよ、玉浦学園としますよね。玉浦学園中学校、玉浦学園小学校、玉浦学園高須小学校になりますよね。実際に一貫教育をするってなると。ただそれと、今までやられてきた小中連携がありますよね。どう違うのですか。小中の連携の方は、もうほっといてもいいと。とりあえず、小中一貫教育の方で、実績を上げていきたいということなのではないでしょうか。

確かにいいことはたくさんあるのですよ。ただそれが小中一貫校に限らず、小中一貫校のレベルが上がったから、それは全体で引っ張っていったから、尾道の教育レベルを上げていきますというのは、土堂小学校と同じですよ。

そういう変なエリート意識というのかな、を持ちかねないのではないかなと。それで、歴史を、郷土愛を育てますというけれども、それ各中学校区ブロックで、それは各地域・地域でやられていることだと思うんです。しかしそれは、各地域・地域でやっていることであって、一貫校においては、尾道全体を考えるのだと。考えることになって欲しいの

宮本教育長	<p>だと。因島もあれば、御調もあると。そういうのを本当にやっ払いこうとすれば、しんどいのじゃないか。いろいろ考えてのことでしょうけども。</p> <p>それよりも、もう、そういう理想よりも、とにかく現実問題として児童が少ないと。1学年、1学級では、もう競争にも、何もならない。子供にとっても悪い。1学年、2学級・3学級あれば、児童自身が、お互いに切磋琢磨できる環境を創りたいんだと。それを、まず前面に出していくべきじゃないんでしょうかね。教育一貫校ができたら、これこれこういうこともやります、私らは、これこれバックアップしますというのが、土堂小学校とだぶってしょうがないのです。以上です。</p> <p>今いろいろとですね、ご意見をいただいたところなんですけど、私が土堂小学校の校長をしていたから、土堂小学校の教育をそのまま新しい学校でやろうというふうには思っていないんです。ただ、土堂小学校をはじめ、市内いくつかの学校で実践されて、これは小学生にとって有効であるっていうものは取り入れていこう、そう思っているわけです。</p> <p>今のスライドにあったことは、私は無理だと思ってません。もちろん時間がかかると思いますが、すぐに令和9年にですね、いきなり今、私が思ってるような教育が100%出来るかっていうと、それはなかなか難しい。正直難しいと思いますけれども、計画的にそれに近づいていく。そういう学校にしていきたいと思ってます。</p> <p>小中連携と小中一貫教育校は、何が違うのかっていうお話ですけども、小中一貫教育校の一番いいところは、先程スライドにもありましたけど、小学校と中学校を連続して、9年間でこういう子供たち、生徒にするっていう、その目標が共有されているっていうことです。</p> <p>今は、小中連携も、もちろんそういうふうな方向に行ってます。ですが、小学校は小学校、中学校は中学校っていう従来の枠組みの中で、目指す学校像とか目指す子供像というのがどうしても、ずれてるわけですよね。それをできるだけ合わせようっていう校区は今市内の中でもいくつかできては来っています。</p> <p>ですけども、小中一貫教育校の良さは9年間で子どもたちを目指す子供になるように育てていこうとする、そこを先生方が共有できるっていうそこが一番の私は大切なところだと思いますし、先程英語教育を充実させるっていう話を出しましたけれども、中学校3年で皆が日常の英会話ができるようにするためには、小学校1年からどういうふうな教育をしていかなきゃいけないかっていうことを1年生からずっと発達段階に応じて考えて教育を行っていく、そういったこともです</p>
-------	---

住民1	<p>ね、小中一貫教育校であればできる、そういうふうに思っていますし、これから尾道市の教育っていうのがそういう方向に、だんだんと進化していくんじゃないかなというふうに思ってます。</p> <p>ですから変なエリート的な学校を創ろうっていうんじゃないありません。これからの日本で必要な教育っていうのはこういう教育なんだっていうことをしっかり考えて、それを実現するための学校を創っていききたい、そう思ってます。</p> <p>言いたいことは分かるんですが、例えば9年間で、児童生徒を育てていく、これは、小中一貫教育校でないとできんですか。今の、今やられてる小中連携というのを教育長が言われたように、小中連携はこんななかったけれども、これじゃつまらんと、これこれこういうやり方でやったらどうなんだろう。それと同じことを実践できんですかね。小中連携だけでは。</p>
宮本教育長	<p>全くできないわけじゃないと思います。一定程度はできると思います。ただ、小中一貫教育校っていう枠組みをきちんと示すことで、よりその教育が、小学校、中学校の先生がそれを共有して、イメージを共有して、より目指す教育ができやすい、そういうものだと思います。</p>
住民1	<p>確かに今これ、ここに書かれていることは、すごいバラ色ですわね。いいですわ、これこれできるのは確かにいうことはないです。実際問題として、長江小、久保小、土堂小学校と独自に取り組んでる能にしても太鼓にしても神楽にしても、それをいいとこ取りだけをやってるんじゃないかなという気がします。というか、例えば、小学校で、皆さん能について学びましょう、体験もしましょう、太鼓もやりましょう、神楽もやりましょう。できますか。</p>
宮本教育長	<p>具体的なやり方っていうのは、今私も、どういうふうにすると、子供たちが、より意欲を持って取り組むことができるのかなっていうのはすごく考えているところです。まだ具体的に、こうしたいっていうのはですね、具体的なイメージを持って皆さんに説明できるだけのものにはなっていないんですけれども。例えば、学年で区切って取り組むということも一つあるでしょうし。縦で希望制でそれを実現していくっていうこともあるでしょうし、いろいろ多分やり方はあるんだと思います。無理なくできるやり方っていうのは、皆さんいろんな方の知恵をお借りしながら、方法っていうのは考えてみたいなと思ってます。</p>

<p>住民 1</p>	<p>そうですね。やっぱり一番教育長が言われていたように、実現しようと思えば、地域の協力、これが一番だと思いますわ。昔でしたら、おらが村の小学校ということで、地域みんながその小学校に対し協力しましたわね。それが今度、広くなってくる。広くなってきたときに、地域と学校の結びつきが今までのような感じにはいかないだろうと地域の祭りを含めてね、いろんなイベントにしてもそうだろうと思います。だからその辺のところを、とにかく地域が参加してこいやこいやと言う感じの雰囲気だけは作ってほしいですね。それとくどいようですが、土堂の二の舞いにならないようお願いいたします。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>土堂の二の舞ってということなんですけど、土堂小学校の校長をしたときに、学校選択制っていうのがありましたね。今もちろんあるんですけども、40人枠あったんですね。当時、普通の小学校ですから、他の地域のお子さんがその枠を利用して、土堂小学校に来られてました。ですから、全校児童の7割ぐらいは、他の方から来てるお子さんっていう状況でした。学校選択制で来てくれるっていうことは土堂小学校を支持してきてくれるから嬉しい反面ですね、でもマイナスの影響っていうのが出てるわけです。土堂小学校はプラスの恩恵を受けた学校だと思いますけれども、逆に地域によっては地域のやっぱり絆っていうんでしょうか。それとか、子供たちが地域に住んでるんだけど、地域の子どもたちと交流があまりしないとか、そういうマイナスな問題っていうのが出ている地域も実はある。学校選択制は、平成30年度に見直しが行われました。専門家の先生方も入られてアンケートも行われて学校選択制を支持されている地域、保護者の方も一定程度アンケートによるといっちゃう。というのは学校の特色に応じて行きたい学校が選べるという、そういうメリット。あるいは、おじいちゃんおばあちゃんが住んでいっちゃう地域の学校に行かせれば、ご夫婦が働いていっちゃう場合、子供が帰るときに、家に誰もいないっていう状態ではなくて、おじいちゃんおばあちゃんのお家があればそこに安心して帰らせることができるから、おじいちゃんおばあちゃんの地域の学校に行かせたい。そういった、それぞれのご家庭のお考えとかニーズなどを学校選択制があることによって実現できるっていう良さはあるんだと思います。でも一方で、地域の絆であったり、コミュニティだったり、そういうものが難しくなってしまったというような、反省のもとに、平成30年度に見直しが行われてまして、学校選択制の一旦は、久保と長江と土堂はゼロになりました。これ耐震化できてないというこ</p>

<p>住民 1</p>	<p>とで、安全性のない学校には多くの子供たちを通わせるのはどうかっ ていう考えのもと一旦ゼロになりましたけど、またこの4月から5人 ですかね、復活したと思います。そういった経緯がありまして、そうい った経緯を踏まえますと、新しい学校に多くの地域、地区外からです ね。多くの方がこられて、そしてそれがエリートに繋がるっていうよ うな、そういうことには私はならないと思いますし、地域の子供たちを 大切にする、そういう学校を作りたいと思ってます。</p> <p>分かりました。それとあと、ちょっと違うんですが、最初に言われて いた、校舎の耐震性、久保小学校は、新たな施設整備を行わないと。 それで例えば、旧久保小学校の校舎ですよ。これを耐震をやって、 どこでもやっていますよね。空き校舎の再利用という形で。校舎の魅力も 感じていますし、その校舎を利用して、何かをしようとかいうことはな いのか。これ教育委員会の管轄になるんですかね。校舎の跡利用とい うのは。</p> <p>ここ久保小学校の校庭は、観光協会さんが、駐車場によく使われてる じゃないですか。これ客が来たらついでに、例えば久保地区なり、尾道 のざっとした紹介をしてみたいなど。観光客相手に、地域や我々高齢者 が、何かできないかなと。みんなが寄る場所にしてもいいでしょうし。</p> <p>久保小学校を出発点にして観光してもらおう。それから観光客に対し てお迎えするような施設として、1階部分は使わせてもらえればありが たいかなと。</p> <p>当然、どこもそうだと思うが、郷土資料室がありましたよね。一時は 良かったんですが、統廃合によって、そこに集まった資料というのは、文 献を含めていろんなものも含めて、これの行き場所は、実際にはないだ ろうと思うんですよ。そういうのを旧校舎で集めた物を展示する場所 とか。</p> <p>それから、地域の発表の場に使わせてもらえばいいかなとは思って ますが、その辺のところは、まだまだですか。</p> <p>耐震は、まず予定はないでしょうかね。</p>
<p>川鯨教育総務部 長</p>	<p>ありがとうございます。非常に歴史ある、趣のある校舎だというこ とで、我々も、耐震化をどうしたらいいか、これまで考えてきました。た だ、現実としては、今はここの校舎は使わない、また、耐震性がないの で、無人化をしているというのが、今の現状です。</p> <p>今後どうしていくかというところは、まだ全く決まってません。確か に先程言われたように、これは教育委員会だけではなく、やはりで、市</p>

<p>住民 2</p>	<p>全体で、それと地域の皆様のご意見等、考えながら、決めていく。今は学校の統廃合というのを、そこに我々としては全力を尽くしている。その後、ここをどう利用していくかをしっかり地域の皆様含めて、考えていきたいと思っています。</p> <p>小中一貫教育ということでご説明をいただいて、非常にすごいなあと、こういうのができれば本当にいいなというふうに私自身思うんですけども。</p> <p>これはどこか、少子化の全国的な流れの中で統廃合されたようなところで、小中一貫教育なんかに進んだような小学校ですね、成功事例と、失敗事例を見て研究されて視察されて、こういうふうな提案をされたんだっていうところがあれば、それをちょっと教えていただきたい。</p> <p>それから、小学校の5階建ての校舎っていうのは、尾道市内、今までありますか。5階建てのエレベーターとかないんですよね。造る計画は。結構、参観日の時はしんどいのかな。それとあと5階建てだと防災訓練なんかのときに上から下まで、降りて逃げろというふうなこともあるかと思うんですけど、その辺のことも考えられてはおられるんだろうとは思うんですけど。</p> <p>それからもう一つ、学校の名前ですよね。これはもうそろそろ考えられてるのかなと。私は久保小学校、久保中学校卒業なんです。一生付いて回りますよね。どどこ小学校で、どどこ中学校を卒業しましたというような、このあたりちょっと教えていただきたいと思う。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>はい、3つのご質問いただいたと思いますが、私の方からは1つ目と3つ目のことについてお答えしたいと思います。</p> <p>小中一貫教育校、広島県内にも呉市は、全ての中学校区で小中一貫教育校になってます。府中市ですね、お隣の府中市は、4つ中学校区があるんですけども、2つは小中一貫教育校で2つは義務教育学校になっています。</p> <p>他にも、大竹市とか広島市とかで、小中一貫教育校になっているところがありますけれども、私たちは、全国的にも一番初めに小中一貫教育を取り入れた呉市に視察に行かせていただきました。安浦中学校区なんですけれども、1中2小で私たちが目指している1中2小のパターンなんですけれども、そこも小学校は統廃合されて一貫校になっています。</p> <p>私たちが見て、やはり勉強になったのは、先程から連携教育と一貫教育の違いとなりましたけれども、やっぱり中学校も小学校の学習内容とか全て引き継ぎができて、小学校の教員も中学校の教員も9年間で</p>

<p>住民2</p> <p>川鱈教育総務部長</p>	<p>どうやって子供を育てるのかっていうのを共通認識されていきました。</p> <p>そういった部分が今だと、小学校の6年間で切れるんで、また中学校から新しいルールのもと、3年間勉強するっていう部分が、連携はしてまずけれども、全くそこがうまく接続っていうことにもなかなか難しいですが、やはり一貫教育校にすると、そういったメリットのもと、子供たちが育成されており、あとやはり地域や保護者の方も今の学校のあり方ですね、呉市の方では、ご理解をされて、今では全校がそういうふうになっている。</p> <p>それで、府中市の方にも行かせていただきました。これ1中学校区なんですけども、1中学校区に4つの小学校があるということで、そこでは常に、校長先生方が集まって、月に1回は集まって、どういうふうに連携していこうかっていうのを話し合われて、コミュニティ・スクールにもなっていますから、地域の方にも参画していただいて、子供を9年間で見たいこうというのが、徹底されていたように思います。</p> <p>ただ1中4小だとなかなかそうは言っても、全部が全部揃えるというのは非常に難しいというのもお聞きしました。</p> <p>そういった中で私たちは、この1中2小の枠組みというのはこうやって見させていただいたり、全国的な流れからいうと、この分離型っていうのは結構あるものですから、この小中一貫教育校、ぜひ実現できないかということで、こういう構想をさせていただきました。</p> <p>それから学校の名前についてなんですけれども、今のところ案はありません。私たちが考えているのは、一定程度、皆さんの統廃合に向けた意識の醸成がされて、新しい学校をみんなで創りましょうと言う段階になりましたら、開校準備委員会というのを先生方や教育委員会、それから保護者の方等も含めて、組織していきたいと思っています。けれども、その中で校名をどういうふうに付けていくのかも含めて協議をしながら、決定していきたいと思っておりますので、今のところ案はございません。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>施設的なものです。</p> <p>まず、市内に5階建ての建物があるかと質問だったんですが、5階建てはありません。</p> <p>これは、まずは、建物の中に体育館を設置していきます。限られた土地を有効活用して、今考えているところが、長江中学校のグラウンド側に建てます。</p>
----------------------------	--

	<p>小学校ですので、グラウンドの基準面積が中学校より狭い。狭くていいということになりますので、グラウンド側に建物を建てて、なおかつ小学校のグラウンドも入ってきます。そうすると今、東側にある部分、現校舎があります、中学校校舎、この部分が、新しい建物ができる令和9年度以降は、地域のために使える。新たな利用方法ができるということです。いわゆる無駄に広くないというか、コンパクトサイズな学校ができるということで、5階建てを、まず目指している。</p> <p>そうすると、昇るのが大変じゃないか、という話もあるかと思いますが、当然エレベーターはつきます。なおかつ、やはり子供たちの、例えば避難経路がどうなのかということで、できるだけ低層の階、2階とか3階に子供たちを集中させるとかいう工夫は、当然考えていきます。</p> <p>これから、実際に設計という段階に、今後なっていくと、より具体化した案をお示しできるかなと思ってますが、今はそういう構想にとどまっているというところで、ご理解をいただきたいと思います。以上です。</p>
住民2	<p>はい。ありがとうございました。</p>
住民3	<p>こんばんは。先日も土堂の地域説明会に参加させていただいた、私、防地町に住んでいます〇〇と申します。</p> <p>長年、土堂に18年ほどですかね、商売しながら住んでいて、私の子供も土堂学区だったんですけど、長江とどちらでもいける同じぐらいの距離のところに家があったので、学校選択制があったので選べる状況だったんですけど、選んだ結果、長江にしました。それは土堂にあまり魅力を感じなかったから選んだんですけど、だからそういった家庭もあるっていうことを認識していただいて、先程言われた土堂ばかりに集中してっていうのは、増えているのは間違いないですけど、そうやって選択されている方もおられるので、他のところを選ばれてるっていうのだからその土堂だけが何か素晴らしいから、そこに集中してるっていう言い方はやめられた方がいいと思います。</p> <p>質問なんですけど、先程学校選択制の話で、子供たちがこちらに土堂だったりですとかに通うことになる、もともと通ってたところ、なんというんですかね。</p> <p>例えば、私の出身だと木ノ庄町になるんですけど、尾道北部から土堂に通うことになるとその木ノ庄町での地域コミュニティの繋がりがなくなるってそういうことですよ、お祭りだったりですとか。絆が途絶える、そういうことですよ。</p>

それでしたら以前も、質問させていただいたんですけど、やっぱりその地域、その地域に学校は残すべきであって、土堂、長江、久保、3校できる限り今の場所で存続させた方が地域のコミュニティの繋がりっていうのは残ると思います。誰もが考えられていると思いますけど、そう思います。

なので、学校選択制の話をするうえで、いつも教育委員会さんはその話をされているんですけど、全く同じことをされようとされてるんで、その絆を裂くようなことをされようとしているので、それは統合に向かうのは、地域コミュニティも崩壊とまでは言わないですけど、やっぱり薄くなっていくんじゃないかなというような懸念をしています。

その辺についてのお考えを1つですね。

この前の土堂の説明会でお聞きしました、前教育長の佐藤教育長がもう合意形成ができるまで話し合っ、1人でも反対の人がいたら前に進めることがない、白紙撤回されたときにそういうふうに明言されてたんですけど。議事録が残っているかどうか分からないと言われてたんですけど、その重要な発言を議事録に残ってないこと自体が問題だと思うんですけど、その議事録、この2日間で調べられましたかっていうのが質問です。

いろんな方のね、話を聞いて、僕はやっぱり尾道が好きで、尾道で商売をやって、その中心部旧市街地というところを選んで、だから商売をしているんですけども、観光客の方も皆さんで、学校の写真を撮りに行ったりとか、やっぱり古い建物を見に来られてるお客様、観光のお客様がたくさんおられて、やっぱり旧市街地のシンボルだと思うので、そこに学校があるっていうのはすごく重要だと思います。耐震も可能だと先日お聞きしたので、ぜひ残していただきたいなと思うんですけど。

地域、地域で土堂、長江、久保となんかエリアによって反対、賛成が分かれてるみたいな。何か言い方をいつも新聞各社だったりですとかされてるんですけど、それはないと思うんですよね。地域によっても、それぞれ反対、賛成あると思いますので、様々だと思うんで、そこは何かまとまった感じでやって欲しくないですし、以前、長江の説明会に参加したときも、何かプールの施設の質問だけにしてくれる今日は、みたいな感じで他の質問を全部お断りされた経緯があります。

なのでその意見を何かどなたか、育友会とかそういったところが意見を集約してまとめるんじゃないなくて、ちゃんと一人一人市民の意見を吸い上げて新しい案を練っていただきたいと思います。ちょっと質問から離れるんですけど。

議事録の件ですね、が2つ目です。

3つ目は、少人数学級、先日のお話会で少人数学級と一定の数の人数生徒がいる学校と比べたらやっぱりコミュニケーション能力を少人数学級だと伸ばしにくいという発言を教育長さんが言われたんですけど、やっぱりこの2日間、田んぼの作業をしながら、そのことばかり考えてたんですけど。

どう考えても、小学校で、少人数の学級であろうと、コミュニケーション能力は伸ばせると思います。むしろ世界の流れはそちらの方に向かっていて、子供たちを伸ばせるのは少人数学級だっていうのはたくさん本も出てますし、あともう一度僕より賢い方ばかりなので、もう勉強されてると思いますけど。

イエナプランの複式学級、ただ以前の複式学級というイメージがなくて、イエナプランの複式学級というのはまた説明したら長いですけどね、良いところたくさんあるんで、そういったものを少人数なりに取り入れたら、統合せずに残せると思いますので、そちらの方もご検討ください。

すいません。3つ目の質問ですけど、以前土堂の話は、2日前に聞いて耐震が可能ではあるけど、学校としての魅力を考えたら今、現地存続よりも統合された新しい学校の方がメリットが大きいので、そちらに学校を造りたいというお話を、宮本教育長はされましたけど。

僕はそうは思わず、3校とも現地耐震を望んでるんですけど、長江の場合は、狭い道を業者が入れないので、それで断念しているという話をされてましたけど、建てたときは狭い道で建てられているので耐震工事ぐらいですと、道でも2tトラックも入ると思いますし、可能だと思っんですけどその辺をお聞かせください。

久保に関しても、先程簡単に耐震が無理だっていうのを言われたんですけど。どこがどう無理なのかっていう耐震が可能かどうかっていうのを今後、耐震で何か市民のために使うにしろ耐震が必要になってくると思いますんで、耐震可能かっていうのを教えていただきたいです。

最後の質問ですけど。何か宮本教育長はこの前お話されてたのは、土堂の説明会がほとんどの方が、現地存続を望んでおられてお帰りになったんですけど、皆さん熱い思いをたくさん発信されてたんですけど。

宮本教育長も、自分の心の中にはその思いは常にありますっていうお話をされてました。でもそれでも、できない何か理由がお立場上何かできない理由があるのか、その辺をお聞かせください。以上です。

長	たいと思います。
住民3	簡単で結構です。
小柳学校教育部長	<p>学校選択制度については、これは様々な考え方もありますし、意見もあると思います。私たちも制度を作ってやってきましたけれども、当時はやはり40人枠を設定するというのは良しと思って制度を続けてまいりましたが、やはり先程から出ている地域コミュニティが崩壊しているんじゃないかというようなご意見もいただきましたし、実際、ある小学校では、みんな来ていけば、2クラスになっていたんだけど、学校選択制度を利用して学校を抜けたために、1クラスになってしまったりというような、やはり学校によって、面白くない思いをされている保護者、地域の方、子供もいたわけです。</p> <p>そういった中で教育委員会も、平成30年度に見直しをさせていただきまして、今では5人枠または10人枠ということで、市内共通の制度として、運用をさせていただいております。この私たちが学校再編の提案をさせていただきましたのは、一番は今日子供たちの教育環境をどうあるべきかということで、提案をさせていただいております。</p> <p>やはり児童生徒数の減少というのは、急激に進んでおりますし、今の久保、長江、土堂、まだ土堂小は5、6年は2クラスですけれども、今後1クラスずつになりますし、今の令和11年度の推計では、39人まで減るといふ、指定学校の子供さんだけでですね。</p> <p>今予想が出ていますね、久保小も、長江小も、100人を切る70人台、80人台、各学校という状況になってまいりますので、教育長も申しましたけれども、子供たちが切磋琢磨したり、多様な考えをいろんな子供から、やはり学んでいくためには、ある一定規模、やはり子供の数とクラス数があった方がいいのではないかということで、今回、3小のこういった提案をさせていただいております。</p> <p>それから、佐藤教育長の合意形成についてですけれども、私どもは、白紙撤回1人でもっていうところが、合意形成というふうに言われてますけれども、ちょっと私どもが認識しているのはそういう認識ではありません。が、正確に議事録、この2日間で確認したのかというと、今まだできてませんので、これはまた宿題とさせていただければと思います。</p>
川鰭教育総務部長	<p>はい、耐震化の方です。</p> <p>当初ですね、スタートは3校について、どうやったら耐震できるんだ</p>

ろうと、この3校だけ残った。この3校どうやったら耐震ができるんだらうかということからスタートしました。ただ、現実として、子供たちの教育を行いながらするのは非常に難しいということで、非常に合意形成まで時間がかかるということで、仮設に動いていただいたという経緯があります。

仮設に動いた段階で、それでは今度はどういう教育が望ましいのか、現実には中学校を巻き込んだという形になりますので、仮設中、学校に長江も久保も行っていただいたということもあって、中学校を巻き込んだという中で、小学校だけではなくてですね、全体としてどうなのかということ、考え始めたという中であるべき姿、学校規模の確保といういわゆる少子化の流れというのも含めた上で、今後どうあるべきかを一生懸命考えて今の提案に至っているという理解です。

それぞれが耐震化できないかっていうとですね、時間とお金をかければ、何とかできるかもしれない。だけれども、それよりもそれをして、あるべきというかですね、我々が一番ベストと言わないですけども、ベターな学校規模、子供たちの教育環境という段階で考えたときには、今ご提案の方法が、一番いいのではないかと。というふうに今我々としては考え、ご提案をされているというふうにご理解いただければと思います。

宮本教育長

私、平成30年から、3年間土堂小学校の校長させていただきましたので、もちろん土堂小学校に愛着もありますし、校長をしていた当時の子供たちもまだ在校生としていますし、先生方もいらっしゃる。そういう中でやっぱり人間の心情として、そういった学校をなくしてしまうと思うのは、やっぱりそれは思えないわけですよ。

だからどこかに、この後も残ったらいいのになんていう思いは、一方ではある。これは正直な思いを先日お話をさせていただきました。ただ、土堂小学校はこれから入学をする子供さんの数を考えたときに、かなり今後少なくなっていく。そうすると、もちろん小人数での教育のメリットもあると思います。

先日お話ししましたが、1人1人の学習状況とか、理解度を先生がしっかり見て、その子その子の状況に応じてきめ細やかな指導ができるっていうところは小規模、人数の少ない、学級のメリットだと思いますし、一人一人の子供たちが思いや考えを発言できる機会も多いわけですよ。

30人もいればなかなか、その言いたくても、やっぱりたくさんの子供たちがいるから、言うチャンスがなかなかないっていうのはありう

る話だと思います。また、様々な活動で一人一人がリーダーとして、活躍できる場面も多いでしょう。また異学年、お兄ちゃん姉ちゃんと一緒にいろんなことを活動をして、学ぶチャンスも多い。そういったメリットがあるというお話も率直にお話させていただきました。

一方で、文部科学省は、小規模校のデメリットも指摘しています。例えば、多様なものの見方や考え方、感じ方、表現方法に触れる機会が少ない。だから自分の考えを広げたり深めたりするのがなかなか難しいという面や適度な競い合いで切磋琢磨する環境が作りにくいと。

学びへの成長への意欲とか、向上心を引き出しにくい、ということ。また、教科の得意なお子さんや発言力のあるお子さんの考えに、クラス全体が引っ張られやすくなる。部活動のメンバーが揃いにくい。部活動の種類が限定される。また、授業においても、体育の球技であるとか、音楽の合奏合唱などにおいて、そういう集団学習の実施に制約が生じてしまう。

次に人間性の面でいきますと、私はこれが一番大きいかなと思ってはるんですけども、社会性や規範意識、先程少人数だから発言できるチャンスが多いからいいっていうお話しましたが、逆に言えば人数が多ければ、我慢しなきゃいけない場面が出てくるわけですよ。

そういう多かったら我慢しなきゃいけないんだけど、そういうことがなくてわりとスムーズに発言できるっていうこれは裏返しなんだと思うんですよね。だからそういった我慢する力だとか、コミュニケーション能力が身に付けることができにくいと、このコミュニケーション能力も単に話したり聞いたりするっていうことではなくて、社会に出たら年齢も違う、考え方も違う。ここにいらっしゃる皆さんもきっと考え方もいろいろだと思います。また持ち味もいろんな持ち味を持ってらっしゃると思います。そういった方々に対して、しっかりと考えを伝えたり聞いたりしながら、いい人間関係が作っていける、そういうコミュニケーション能力です。

これは大手の就職支援企業が、毎年大学生の新卒者に企業が求める能力にコミュニケーション能力を一番に挙げてきているんです。だからやっぱり社会で求められている能力っていうのはそういう世代も違う、考え方も違う、いろんな方とコミュニケーションが取れて人間関係が作れる、そういう能力を企業も求めているんだと思うんですけど、そういった素地を作る小学校において、やはりそれだけ多様なお子さんがいらっしゃる。

そういう中で、あの子は、ああいうところが得意だけど、苦手なところもあるんだとか、あの子は普段意地悪なことをしてるけど、優しい

面もあるんだとかですね、いろんな良いところ悪いところも含めていろんなことを感じて育つっていうのはやっぱり人間理解に繋がるんじゃないかなって私は思います。

また、先生の指導が先程の話と裏表になりますけど、少人数だと先生の指導が行き届く反面、先生の依存が強まるっていうことが指摘されているんです。私も、若いころ小規模校で勤務したことがあるんですね、4年間。複式学級の担任もしました。3年生が4人で、4年生が6人、だったと思うんです。10人のクラス。すごくアットホームな関係が作れていいところもたくさんありました。だけど、やっぱりアットホームなだけにちょっと厳しさに欠ける面が出てきたり、先生に頼ってしまう。人数が多かったら、もう先生もそんなに一人一人に関わることが難しくなってしまいますから。自分で考えて行動する力っていうのはおのずと育ってくると思うんですけど、人数が少ないと先生もついつい細かい指示を出しがちになってしまうし、子供も逆に先生にこれしてもいいですか、これしてもいいですかっていうような感じになってしまうっていうところは、少ない人数のデメリットなのかなっていうふうに思います。これも文部科学省が指摘しています。

子供同士の間関係の面でいいますと、やはり人間関係が固定化されてしまいがちだという面ですね。

それからあと、学級内の男女の比率が、偏りが生じやすいということも指摘しています。例えば、男の子が7人に対して女の子が1人とか2人しかいないとかですね、あるいは逆に女の子が5、6人いて男の子が1人とか2人とかっていうふうに男女の比率が、なかなかうまくいかないっていうことも言われています。

また、班分けやグループ分け学級編制のバリエーションが少ないので制約が生じてしまうと、それから、小規模の小学校から、大きい規模の中学校に進学したときに、子供さんの中にはやっぱり大きな集団への適用が難しくなって、ちょっと学校に行きにくいお子さんが出てきます。

これは私も、小規模の学校の6年生の担任をしたときに中学校へ送り出したんですけど、あるときお母さんに出会って、何々くん、中学校で頑張っていっちゃいますかって聞いたら、そのお母さんが表情を曇らせて、実は先生ちょっと今学校に行っていないんですって言われて。どうしたんですかって言ったら、ちょっとやっぱり気遅れっていうんですかね。別に何かがあったわけじゃないんですけど、やっぱり大きな集団で生活してなかったんで、ちょっとやっぱり大きな集団での適応でちょっと精神的に何かやっぱりあったんだと思うんですよ。そのお子

<p>住民3</p>	<p>さんも3ヶ月ぐらいしたら、また学校に行けるようになられたとはと聞いたんですけれども、やっぱりちょっとそのお子さんによっては大きい集団に入るときに、少し精神的にしんどさを感じられるお子さんも出てこられる。そういったような中身が文部科学省の公立小学校中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きを読みますと指摘をされています。ですので、こういった小規模校の良さもあり、また小規模校の難しさも、考えたうえでやはり適正規模の学校で教育をしていくこととか、総合的に見ると、いいんではないかなと。</p> <p>もちろん小規模校を否定してるわけじゃないですよ。多少それも一つの選択肢として正解だと思いますし、私たちが提案させていただいているのも正解だと思うんですけど、どちらをより良いと判断するかっていう問題だと思います。</p> <p>先程の絆の質問ですけど、コミュニティがなくなるということに答えられてないんですけど、よろしくお願いします。統合するとそれぞれのエリアから小学校が消えてしまうと、絆がなくなっていきやすいと思うんですが、それについてお答えをお願いします。</p> <p>先程言われたことも、分かりますけど、そういう子も、もしかしたらいるかもしれませんが、一概にそう言われるのはちょっと違うかなと感じております。確かに、大勢の人数にいきなり行くとびっくりはするんですけど。そういう子はおられると思いますけど、だからといって小規模校じゃなく、言われている統合校がいいよってというのは、ちょっと違うと思いますけど。</p> <p>あと後々は、少子化で、どこも少なくなるので、どこも小規模校になると思うんで、対策をまず考えるべきであって、その3校を残して耐震化をして、こちらの旧市街地に住んでいただける移住者を増やしていくことに力を入れていかれる方が、より生徒数も減らずにいいと思います。</p> <p>学校選択制も、耐震化で、子供を取られないようになったと言われましたけど、外から見たら、その3校の人数を減らしたいから、ゼロにしてるようにしか見えなかったの。これだけ何年もゼロにしたら、もうそれは減るに決まってますし、グラフもたくさん出されてましたけど、さらに減りますよね。じゃあ統合がいいでしょうっていうのは、ちょっと乱暴だと思います。なぜ耐震化が駄目だったら、外部から新しい子を取らないかっていうのが、ちょっとよく分からないですね。はい。</p> <p>宮本教育長</p> <p>絆を大切にすることであれば、3校残して、耐震化したらどうかってい</p>
------------	--

	<p>うご質問で、よろしいですかね。</p>
<p>住民3</p>	<p>絆を大切にされたいのなら、3校残された方が、よりコミュニティは、歴史もありますし、存続すると思います。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>おっしゃることはよく分かりますけれども、耐震化して3校残すってということになるなった場合に、やはり、先程のより良い教育環境はどういう環境なのかっていう議論なんだと思います。教育委員会としては、私としては、一定規模の学習集団で学ぶ、そういう環境がよりいいんじゃないかなというふうに思ってますので、もちろん、地域の絆、地域のコミュニティということからすると、耐震化して、それぞれの学校残す方がいいんじゃないかっていうお考えも、分かるところはあるんですけども、やっぱり一定規模の学習集団で、育てるっていう方がより望ましいんじゃないかっていう判断を今しているというところで</p>
<p>住民1</p>	<p>すみません。耐震化どうのこうのよりも、もともとは、ハザードマップが前提にあったわけだから。でも久保の場合には、例えばイエローゾーンがありますね、長江、土堂は、完全にレッドゾーンですよ。そのところをはっきりしておかないと。耐震化して、残してくれと言っていないんですよ。</p> <p>だから、間違えちゃいけないのは、教育委員会さんが、もう子供が少なくなったと、これでは、我々が思ってる子供のための教育ができないと、3校統合してやりましょうと、3校統合してやる以上は、これこれ、こういう新しいビジョンを持ってやりますと言って、簡略的に説明した方がいい。あーだ、こーだというよりも。僕はそう思うてますよ。</p> <p>だけど僕は、久保小学校がなくなるので寂しいですよ。寂しいけども、実際、子供のことを思ったら、競争しながら、成長していく方がいいわけですから。</p> <p>1クラスで、ずっと、6年から9年間を、中学校行っても、それこそ過疎地だったら、9年同じ顔とやらないといけないわけだから、それよりもやっぱりできるだけ、今考えられる出生率が下がっている、子供も少なくなっていると。もう3校ともこのままじゃどうもならんと。子供のためによくないんで、たまたま良い具合に、耐震化問題が出てきたと。そこまで言っちゃいけないでしょうけれども。</p> <p>実際問題、1クラスで6年間するよりも、2から3クラスで、6年間する方が、子供にとってはいいはずなんですよ。</p>

	<p>そこはもうちょっと、強調されるべきだろうと思うし、実際のところ、ぶっちゃけたところ、悪いけども人数が減ってきているし、どうもならんと、我々が思っている教育を皆さんに提供しようと思ったら、こういう方法しかないんです、ってはっきり言った方が、いいことはないんですかね。</p> <p>僕は、そういう意味で、公には賛成はしにくいけど、でも基本的には一応賛成するしかないでしょう。耐震化してから、残せるのならいいですが、それが言えるのはもう久保だけなんですよ。長江、土堂は、完全なレッドゾーンですからね。</p> <p>なんで予算かけて耐震化して、山が崩れたら潰れるような学校に、お金を入れるのか。そうでなくても予算が少ないのに。耐震がどうのこのよりも、やっぱりレッドゾーンがまずありきで、これ幸いと言ってはいけないのだけれども、とにかく統合しようという。長期的な目標もあったわけですから。</p> <p>でも、一番いいのは、われらはこうしようと思うと、みんな協力してくれと、言う方がいいのでは。人というのは、いろんなこと言いますんでね。あーだ、こーだと。</p> <p>聞くようなふりして結局、ふたを開けてみたら何も聞いてなかったというたら、逆に裏切られた思いがする方が多いだろうしね。</p> <p>それで、今日参加されている人は、時間を作って、教育委員会は、これからどうなるんだろうか、久保地区どうなるのだろうかということで、関心を持って来られてますんで、実際のところ、胸襟を開いて話しをする方が、早いこと進むと思いますよ。</p>
住民 4	<p>はい。話も紛糾しているようですが、大宮町内会の〇〇といます。久保小中学校、長江小中学校ですね、これ不断に郷土愛を育み、地域の協力を得られると思うんです。今のように長江と久保に分けるよりは。そのままその場所で、小学校と中学校が一緒。本当の9年間一貫教育。アメリカンハイスクールは皆そうですね。同じとこでやってますね。別々の場所ですと、小学校の先生が、中学校の先生と話をするのに時間がかかるし、場所も遠いし、できるんですかと思うんです。これと、質問なんですけど、すいません時間も過ぎてるんですけど。よろしくお願ひします。</p>
三浦学校経営企画課	<p>はい。今、お話いただきました。ちょっと確認ですけど、今の久保中の場所に久保小中が一つに入り一つの学校で、長江中の場所に長江小と長江中が同じ敷地の中に一つの学校ということですか。</p>

<p>住民 4</p> <p>三浦学校経営企画課</p>	<p>はい。久保小中学校と長江小中学校です。</p> <p>はい。今我々が提案している学校というのは、繰り返しになりますけれども、小学校と中学校が別の敷地ということになります。その中で小学校の先生と中学校の先生方が、なかなか連携ができないのではないかとこのご不安だと思っておりますけれども、我々も、先程申し上げましたように、先進的に小中一貫教育をやっている学校などを視察しまして、例えば、呉市は別の敷地でやってるところが多いです。</p> <p>そういったところも見ましたし、先程安浦の例もそうですし、また逆に一緒のところもありますけれども、敷地が別だからといって、連携がおろそかになるとかその一体感がないということはないというふうに我々は勉強しました。確かに若干の距離がありますので、隣に行けば、すぐ中学校がある状況ではないですから、そこの比較になりますと若干やっぱり生じるかもしれませんが、視察をする中ではマイナスの点は少ないと。しっかり連携をとりながら、子供たちの教育を見ていくことができるようなことを思っております。</p>
<p>住民 4</p> <p>地域</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>時間は経過しているのですが、簡潔にいたしますが、私は土堂学区の西御所町内会の会長をしておりますし、市議会議員もしております。</p> <p>久保、土堂、長江という統合ということなので、久保小学校区の方がどういうふうに考えているのかということをお伺いいたくて、今日出席しました。</p> <p>3日にですね、土堂地区の住民の説明会がありました。ここでは、62人が参加をしましたが、その前の1回目は80人が参加しています。</p> <p>今日、ざっと数えますと、25名ぐらいですね。こちらの参加者がね。</p> <p>そこでの論議の中では、参加したほとんどの人が統合には異論があると、土堂を残してほしいと。</p> <p>先程説明の中で、子供の数が減っているという。これは日比崎小学校は、現在、467名、5月1日現在でね。運動場に仮設校舎を建てられていて、未だに自分の小学校では運動会ができないと。こういうものが隣接しているわけですね。ですから、保護者の方からも、地域の方からも、お隣の日比崎小学校区から、一部を土堂にしたらいんじゃないかという意見が出ました。これについても反論をされたわけですが、詳し</p>

	<p>くは述べません。これは駄目だという話でしたね。</p> <p>お伺いしたいのは、土堂地区では、地区社協の協力を得まして、住民のアンケート調査を行いました。新聞報道もされましたが、52%の回収率で8割弱の人が、統合には反対だと、現地で残してくれということでもありますし、保護者の方たちも、そういうものが多数を占めていますということです。</p> <p>お聞きしたいのはですね。土堂学区については、当然合意は取れてないと、認識したと思います。</p> <p>市教委として、これまでの説明会や、保護者に対する説明などを通じて、久保小学校区については、保護者または住民の方々からは、統合に対してどういうふうに考えているというふうに教育委員会は見ているか、ということを実時点での判断でいいですから、お聞かせください。</p> <p>もう一つは統合する場合は、住民と保護者の合意、納得が前提だというふうに前に確認したことがあります。そういう見解は、今でも変わっていないのかと。</p> <p>この2点を。お聞かせいただきたいと思います。</p>
小柳学校教育部長	<p>はい。久保小の地域や保護者の方の今の状況ですけれども、私たちとすれば賛成の方もいらっしゃるし、反対の方もいらっしゃるだろうというふうに思っています。</p> <p>ですから、保護者や地域の方にこのような説明会をさせていただいて、今、私たちの小中一貫教育校構想について説明をさせていただいている段階だというふうに思っています。</p> <p>それから、今後の進め方に関わってくるとは思いますけれども、住民、保護者。私たちは、保護者の方にまずはご理解をいただいて、住民の方にもご理解していただきたいという順番で、保護者の方をメインに据えてこれまで説明会をさせていただきました。</p> <p>当然100%の合意が得られれば、もう文句なし統合ということになりますけれども私たちの考え方に全員が賛成していただけないということはあると思っています。</p> <p>ですから、今後私たちとすれば、説明を尽くしてまいりますけれども、どこかの段階で教育委員会として判断をさせていただく時期が来るのではないかと考えています。</p>
地域	<p>今の発言をまとめますと、久保地域については、まだ合意ができたというような段階、状況だとは思っていないと、だから説明をしているということ。</p>

	<p>それから、合意と納得というのはですね、100人おったら100人がOKいうことを意味するわけじゃないですよ。住民の少なくとも多数が、要は、しょうがないなということも含めて、統合の意向について賛意を示しているということをもって言うんであってね。100人が100人とも賛成しないと、合意が出来ていないというようなことは、私は言うつもりはありませんが、少なくとも、何らかの形でその住民や保護者の方が、やむを得ないなと、積極的に賛成されることもありましようが、そういうことが前提ですねと。これは前も確認をいたしました、土堂地区でもね。</p> <p>そういうことでいいですか、ということをお簡潔に言ってください。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>はい。今の状況でいいますと、各地域、それぞれ質問いただく中身も違いますし、皆様方の反応も違ってきます。</p> <p>ですから、そういった中で、今の段階とすれば、説明を尽くさせていただいて、どこかの段階で判断させていただくというふうなことを申し上げたいと思います。</p>
<p>地域</p>	<p>今度、議会の説明でいきましょうかね。長くなるから。</p>
<p>住民5</p>	<p><u>(地域の方に対して)</u></p> <p>ちょっと待ってくださいよ。私ね、久保地域なんですけど。土堂の方から久保地域は、合意形成されていないというミスリードはしないでくださいよ。</p>
<p>地域</p>	<p>聞いただけですよ。</p>
<p>住民5</p>	<p>だから、ミスリードしないでくださいよと言ってるんですよ。</p>
<p>地域</p>	<p>相手が答えたんですよ。</p>
<p>住民5</p>	<p>あなたがミスリードしていますよ。久保地域は、合意形成されていないですねと。それは違うと思いますよ。</p>
<p>地域</p>	<p>それは、そうじゃないと市教委が答えたらしい。</p> <p>市教委に見解を聞いたのだから。</p> <p>いいですよ。時間が来たので。</p>

<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>はい。予定した時刻となりましたので、他に質問がなければ、会を終わっていきたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは最後に、小柳学校教育部長の方から閉会の挨拶を行っていきます。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>5 閉会</p> <p>本日は第2回久保小学校区の地域説明会として、主には3月28日以降の取組内容について、報告させていただくとともに、小中一貫教育校の教育内容や通学の安全対策について、説明させていただきました。</p> <p>本日いただいた意見等も踏まえまして、保護者や地域の皆様に新しい学校創りについて、さらに理解をしていただくように、教育委員会として最大限努力してまいります。</p> <p>教育委員会としましては、未来を担う子供たちのために、尾道のモデルとなる小中一貫教育校を強い思いを持って実現させてまいりたいと考えております。</p> <p>そのために今後も教育内容や施設の充実に向けた、視察や研修、通学の安全対策等に取り組んでまいります。</p> <p>本日は説明会にお集まりいただきどうもありがとうございました。</p>